

「天体写真」という世界は、「これで、完璧、満足な写真！」というラインは存在しません。「観賞用」か「研究用」か「記録用」かでも「満足ライン」が異なるような気がします。彗星の場合、どの目的で撮影したとしても、もちろん「尾がしっかり写っている」ことが重要です。

通常、太陽に近づいて彗星には「2種類の尾」が存在するのが普通です。彗星の尾というのは、流星の光軌とはちがって「動く方向の後方」にできるものではありません。「彗星本体（核）から見て太陽のある方向の逆側」に尾ができるのです。彗星が動く方向（宇宙空間を移動する方向）は、尾の向きとはほぼ直角に近くなります。2種類の尾のうち、「イオンの尾（イオン・テイル）」は太陽の真逆で、青い色をしています。「塵の尾（ダスト・テイル）」は、イオンの尾よりも少し右（または左）にずれているのが普通です。塵の尾は、彗星が動く方向とは逆に「たなびく」ように形成されるのです。ちょうど、蒸気機関車の排煙が、進行後方に流れるのと同じです。



今回の「レモン彗星」は、基部（核に近い部分）がイオンの尾と塵の尾が重なっていて、写真でもなかなか分離して写りませんでした。しかし、光害の少ない北軽井沢で長時間露光した結果、やっと2種類の尾を「分離させる」ことに成功しました。

15分程度の長時間露光なので、縦横斜めにたくさんの人工衛星が横切っていて、まるで古いプリント写真のように傷ついて見えるのが面白いです。また、イオンの尾にも、濃淡や構造（形状の変化）があることもわかりました。

まあ、素人がここまで撮れたのですから、一応満足しなければいけないでしょうね。

「レモン彗星 C2025/A6」

2025,11,-2/18:45/約 15 分露光

群馬県長野原町北軽井沢

撮影；C.Tanaka